



2024年5月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年12月15日

上場会社名 アスкул株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2678 URL <https://www.askul.co.jp/corp/investor/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 CEO (氏名) 吉岡 晃
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 CFO (氏名) 玉井 継尋 (TEL) 03-4330-5130
 四半期報告書提出予定日 2023年12月28日 配当支払開始予定日 2024年1月22日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2024年5月期第2四半期の連結業績(2023年5月21日~2023年11月20日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年5月期第2四半期	231,288	5.0	7,242	7.4	7,104	5.9	4,637	3.5
2023年5月期第2四半期	220,251	5.4	6,745	0.7	6,709	△0.1	4,481	△1.4

(注) 包括利益 2024年5月期第2四半期 4,778百万円(5.3%) 2023年5月期第2四半期 4,538百万円(△1.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年5月期第2四半期	47.58	47.52
2023年5月期第2四半期	45.99	45.93

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年5月期第2四半期	221,508	70,070	30.3
2023年5月期	227,506	66,876	28.2

(参考) 自己資本 2024年5月期第2四半期 67,150百万円 2023年5月期 64,145百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年5月期	—	16.00	—	18.00	34.00
2024年5月期	—	18.00			
2024年5月期(予想)			—	18.00	36.00

(注) 1 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2 2023年5月期期末配当金の内訳 普通配当 16円00銭 30周年記念配当 2円00銭

3. 2024年5月期の連結業績予想(2023年5月21日~2024年5月20日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	482,000	7.9	16,500	12.9	16,200	12.1	10,300	5.2	105.69

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2024年5月期2Q	97,564,700株	2023年5月期	97,518,800株
② 期末自己株式数	2024年5月期2Q	39,406株	2023年5月期	62,406株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2024年5月期2Q	97,471,883株	2023年5月期2Q	97,450,223株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	12
(重要な後発事象)	13
3. その他	14
販売費及び一般管理費の明細（連結）	14

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間（2023年5月21日から2023年11月20日まで）におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和され、経済活動の正常化が進んだことにより企業活動・個人消費行動に持ち直しがみられました。一方、ロシアのウクライナ侵攻等による原材料・エネルギー価格の上昇や円安による輸入価格の上昇は国内物価を上昇させ、家計・企業の活動に影響を与えています。

このような状況の中、当社グループは、前連結会計年度に達成した「売上成長カーブを変える」を継続しながら、2024年5月期では「利益成長カーブも変える」を最大のミッションと位置付け、中期経営計画（2022年5月期～2025年5月期）に掲げた最終年度の業績目標達成に向け、取扱い商品数の拡大に加え、BtoB事業での積極的な広告費・販促費の投下、本格稼働した新アスクルWEBサイトへのお客様の移行等、当社グループの成長に繋がる積極的な施策を進めております。

また、当社は「エンカルeコマース」の実現を目指していることから、いわゆる「物流2024年問題」解決の一助となるべく、BtoB事業のASKULおよびソロエルアリーナの2023年10月31日18時以降のご注文分から、配送バー（注1）を変更しております。お客様にまとめてご注文いただくことで、サプライチェーン全体における環境負荷・労働負荷低減を進め、サステナブルな社会の実現に向けた取り組みも進めております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の当社グループの業績は、売上高2,312億88百万円（前年同期比5.0%増）、営業利益72億42百万円（前年同期比7.4%増）、経常利益71億4百万円（前年同期比5.9%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益46億37百万円（前年同期比3.5%増）となり、第2四半期連結累計期間としては、売上高、営業利益、経常利益および親会社株主に帰属する四半期純利益いずれも過去最高となりました。

セグメント別の経営成績につきましては、以下のとおりです。

<eコマース事業>

当社グループの主力分野であるBtoB事業につきましては、仕事場で働く全てのお客様のご要望にお応えすべく、飲料、日用消耗品等の生活用品商材、抗原検査キット等の新型コロナウイルス感染症関連商材、袋・梱包資材等のMRO（注2）商材など、幅広く商品を取り揃えております。新型コロナウイルス感染症関連商材については、新型コロナウイルス感染症対策の落ち着きにより、抗原検査キット、消毒剤等の売上高が減少しましたが、ペットボトル飲料や日用消耗品等の生活用品の売上が順調であったこと等に加え、主力商品の一部等について価格改定を行ったこと等により購入単価が上昇し、売上高が伸長し増収となりました。

2022年7月の新アスクルWEBサイト構築に関連する一部機能（中堅大企業向けのWEBサイトであるソロエルアリーナサイトのオープン化）のリリースの効果による検索エンジン経由での売上高の増加は継続しております。2023年7月に本格稼働した新アスクルWEBサイトへのお客様の移行は、上期中に約3割を完了し、引き続き、計画通り移行を進め、投資効果を高めてまいります。

また、前連結会計年度末に連結子会社化した株式会社AP67の事業子会社であるフィード株式会社等の業績が当四半期累計期間を通じて寄与したことや、連結子会社である株式会社アルファパーチェスの業績が順調であることが、売上高の成長に貢献しております。

この結果、BtoB事業の売上高は、前年同期比で192億円増収の2,006億17百万円（前年同期比10.6%増）となりました。

BtoC事業につきましては、当第2四半期連結累計期間の売上高は、LINEヤフー株式会社（旧Zホールディングス株式会社）のコマース事業のコスト最適化によるキャンペーン変更も影響し、減収となりましたが、概ね計画通り進捗しました。2023年10月に「LOHACO by ASKUL（「LOHACO本店」）」と「LOHACO Yahoo!店」を統合し、両店舗の特長を結集した形でYahoo!ショッピング店内にてリニューアルオープンしており、マーケティングによる販促施策や商材拡大等により「LOHACO」の売上高再成長を進めております。

この結果、「LOHACO」の売上高は、前年同期比で79億14百万円減収の174億86百万円（前年同期比31.2%減）となり、BtoC事業合計で、前年同期比で80億38百万円減収の260億55百万円（前年同期比23.6%減）となりました。

以上の結果、両事業を合計したeコマース事業の売上高は2,266億73百万円（前年同期比5.2%増）となりました。売上総利益は、生活用品の売上高の増加や一部商品の価格改定等により売上総利益率が改善し、573億65百万円（前年同期比7.6%増）と大幅な増益となりました。

販売費及び一般管理費は、主力商品の一部の価格改定の影響等もあり、一箱あたり売上単価の上昇に伴い売上高

配送費比率は減少しました。一方で、投資を行ってきた新アスクルWEBサイトや「ASKUL東京DC」の稼働によりソフトウェア償却費や減価償却費が増加し、また、当連結会計年度の重点施策の一つとして、BtoB事業のサービス名称や戦略商材の取扱い認知度向上を目的としたテレビCMの実施とそれと連携したインターネット広告出稿の増加等により、売上高販管費比率が前年同期比0.5ポイント増加しました。以上の結果、販売費及び一般管理費は500億25百万円となり、営業利益は73億39百万円（前年同期比7.6%増）となりました。

<ロジスティクス事業>

ASKUL LOGIST株式会社の当社グループ外の物流業務受託の売上高は概ね前年同期と同水準で推移したものの、原価高騰等の影響により採算が悪化し、減収減益となりました。当第2四半期連結会計期間においては、価格改定等により収益性は改善しており、引き続き収益性の改善に努めてまいります。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は41億80百万円（前年同期比1.1%減）、営業損失は1億22百万円（前年同期は営業損失97百万円）となっております。

<その他>

孺恋銘水株式会社での飲料水の販売が堅調に推移し売上高は前年同期と同水準となりましたが、営業利益は生産性が向上し増益となりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は10億17百万円（前年同期比2.7%減）、営業利益は65百万円（前年同期比50.9%増）となっております。

- (注) 1 基本配送料を当社が負担する注文金額基準。
2 Maintenance, Repair and Operationsの頭文字をとった略称で、工場・建設現場・倉庫等で使用される消耗品・補修用品等の間接材全般を指します。

(2) 財政状態に関する説明

(資産の部)

当第2四半期連結会計期間末における総資産は2,215億8百万円となり、前連結会計年度末と比べ59億98百万円減少いたしました。これは主に、前連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、決済日が連結会計年度末日である電子記録債務84億44百万円が前連結会計年度末残高に含まれていたこと等により現金及び預金が73億62百万円、リース資産（純額）が15億4百万円減少した一方、受取手形、売掛金及び契約資産が25億80百万円増加したことによるものであります。

(負債の部)

当第2四半期連結会計期間末における負債は1,514億37百万円となり、前連結会計年度末と比べ91億92百万円減少いたしました。これは主に、電子記録債務が104億68百万円減少した一方、支払手形及び買掛金が35億57百万円増加したことによるものであります。

(純資産の部)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は700億70百万円となり、前連結会計年度末と比べ31億94百万円増加いたしました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益46億37百万円の計上に対し、配当金の支払いが17億54百万円あったことにより、利益剰余金が28億83百万円増加したことによるものであります。

以上の結果、自己資本比率は30.3%（前連結会計年度末は28.2%）となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は588億60百万円となり、前連結会計年度末に比べ73億62百万円減少いたしました。なお、当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは19億50百万円の収入（前年同期は99億28百万円の収入）となりました。これは、税金等調整前四半期純利益70億79百万円、減価償却費、ソフトウェア償却費、のれん償却額および顧客関連資産償却額の合計50億85百万円があった一方、仕入債務の減少69億11百万円、法人税等の支払額27億7百万円、売

上債権の増加25億73百万円があったこと等によります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは44億92百万円の支出(前年同期は80億55百万円の支出)となりました。これは、ソフトウェアの取得による支出29億56百万円、有形固定資産の取得による支出14億72百万円があったこと等によります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは48億20百万円の支出(前年同期は33億76百万円の支出)となりました。これは、配当金の支払17億54百万円、長期借入金の返済による支出16億91百万円、リース債務の返済による支出14億12百万円があったこと等によります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年7月4日に公表いたしました連結業績予想から修正は行っておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年5月20日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年11月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	66,223	58,860
受取手形、売掛金及び契約資産	51,954	54,535
商品及び製品	22,017	22,951
原材料及び貯蔵品	306	303
未成工事支出金	112	121
未収入金	12,623	11,850
その他	2,757	2,249
貸倒引当金	△36	△43
流動資産合計	155,958	150,828
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	10,031	10,077
減価償却累計額	△4,648	△4,928
建物及び構築物（純額）	5,382	5,149
土地	247	247
リース資産	30,268	30,214
減価償却累計額	△11,850	△13,301
リース資産（純額）	18,417	16,912
その他	11,719	12,003
減価償却累計額	△8,729	△9,009
その他（純額）	2,989	2,993
建設仮勘定	825	2,009
有形固定資産合計	27,862	27,312
無形固定資産		
ソフトウェア	7,950	17,362
ソフトウェア仮勘定	11,037	1,804
のれん	5,533	5,264
顧客関連資産	8,064	7,803
その他	9	10
無形固定資産合計	32,594	32,245
投資その他の資産		
投資有価証券	159	159
繰延税金資産	4,226	4,162
その他	7,545	7,654
貸倒引当金	△840	△855
投資その他の資産合計	11,091	11,121
固定資産合計	71,547	70,679
資産合計	227,506	221,508

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年5月20日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年11月20日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	54,614	58,172
電子記録債務	33,683	23,215
短期借入金	380	380
1年内返済予定の長期借入金	10,127	9,576
未払金	12,356	11,684
未払法人税等	2,677	2,382
未払消費税等	423	1,309
引当金	373	1,155
その他	5,863	6,104
流動負債合計	120,499	113,980
固定負債		
長期借入金	10,337	9,195
リース債務	16,850	15,293
退職給付に係る負債	4,764	4,905
資産除去債務	3,190	3,195
繰延税金負債	2,750	2,661
その他	2,236	2,204
固定負債合計	40,130	37,456
負債合計	160,630	151,437
純資産の部		
株主資本		
資本金	21,189	21,233
資本剰余金	14,906	14,950
利益剰余金	28,120	31,004
自己株式	△92	△58
株主資本合計	64,124	67,130
その他の包括利益累計額		
退職給付に係る調整累計額	20	20
その他の包括利益累計額合計	20	20
新株予約権	0	0
非支配株主持分	2,729	2,919
純資産合計	66,876	70,070
負債純資産合計	227,506	221,508

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年5月21日 至 2022年11月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年5月21日 至 2023年11月20日)
売上高	220,251	231,288
売上原価	166,679	173,657
売上総利益	53,572	57,631
販売費及び一般管理費	46,827	50,388
営業利益	6,745	7,242
営業外収益		
受取利息	20	19
助成金収入	48	38
その他	63	30
営業外収益合計	132	89
営業外費用		
支払利息	116	201
その他	51	25
営業外費用合計	168	227
経常利益	6,709	7,104
特別利益		
固定資産売却益	0	0
投資有価証券売却益	22	-
受取保険金	163	-
その他	0	-
特別利益合計	186	0
特別損失		
固定資産除却損	41	25
その他	2	0
特別損失合計	43	25
税金等調整前四半期純利益	6,851	7,079
法人税、住民税及び事業税	2,213	2,326
法人税等調整額	108	△25
法人税等合計	2,321	2,300
四半期純利益	4,529	4,778
非支配株主に帰属する四半期純利益	48	141
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,481	4,637

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年5月21日 至 2022年11月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年5月21日 至 2023年11月20日)
四半期純利益	4,529	4,778
その他の包括利益		
退職給付に係る調整額	8	△0
その他の包括利益合計	8	△0
四半期包括利益	4,538	4,778
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,489	4,637
非支配株主に係る四半期包括利益	48	141

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年5月21日 至 2022年11月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年5月21日 至 2023年11月20日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	6,851	7,079
減価償却費	1,825	2,186
ソフトウェア償却費	1,429	2,369
長期前払費用償却額	40	38
のれん償却額	121	268
顧客関連資産償却額	4	261
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	15	22
引当金の増減額 (△は減少)	251	782
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	178	141
受取利息及び受取配当金	△20	△22
支払利息	116	201
投資有価証券売却損益 (△は益)	△22	-
受取保険金	△163	-
固定資産除却損	41	25
固定資産売却損益 (△は益)	△0	△0
売上債権の増減額 (△は増加)	△3,751	△2,573
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△2,819	△940
未収入金の増減額 (△は増加)	517	772
仕入債務の増減額 (△は減少)	9,238	△6,911
未払金の増減額 (△は減少)	△732	△450
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△288	885
その他	△334	697
小計	12,501	4,832
利息及び配当金の受取額	20	22
利息の支払額	△116	△202
保険金の受取額	163	-
法人税等の支払額	△2,672	△2,707
法人税等の還付額	32	4
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,928	1,950
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△3,713	△1,472
ソフトウェアの取得による支出	△4,500	△2,956
長期前払費用の取得による支出	△20	△49
差入保証金の差入による支出	△18	△64
差入保証金の回収による収入	291	44
貸付けによる支出	△5	△1
貸付金の回収による収入	3	18
投資有価証券の売却による収入	22	-
資産除去債務の履行による支出	△111	△9
その他	△3	△1
投資活動によるキャッシュ・フロー	△8,055	△4,492

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年5月21日 至 2022年11月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年5月21日 至 2023年11月20日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△823	△1,691
リース債務の返済による支出	△993	△1,412
自己新株予約権の取得による支出	△0	-
非支配株主からの払込みによる収入	-	37
配当金の支払額	△1,559	△1,754
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,376	△4,820
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,502	△7,362
現金及び現金同等物の期首残高	58,789	66,223
現金及び現金同等物の四半期末残高	57,286	58,860

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2022年5月21日 至 2022年11月20日)

報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報ならびに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)3
	eコマース 事業	ロジスティク ス事業	計				
売上高							
BtoB事業	181,417	—	181,417	—	181,417	—	181,417
BtoC事業	34,094	—	34,094	—	34,094	—	34,094
ロジスティクス事業	—	4,227	4,227	—	4,227	—	4,227
その他	—	—	—	512	512	—	512
顧客との契約から 生じる収益	215,511	4,227	219,738	512	220,251	—	220,251
外部顧客への売上高	215,511	4,227	219,738	512	220,251	—	220,251
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	533	533	△533	—
計	215,511	4,227	219,738	1,046	220,785	△533	220,251
セグメント利益 又は損失(△)	6,824	△97	6,726	43	6,769	△24	6,745

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、製造事業を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失の調整額△24百万円は、セグメント間取引消去になります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2023年5月21日 至 2023年11月20日)

報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報ならびに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)3
	eコマース 事業	ロジスティク ス事業	計				
売上高							
BtoB事業	200,617	—	200,617	—	200,617	—	200,617
BtoC事業	26,055	—	26,055	—	26,055	—	26,055
ロジスティクス事業	—	4,180	4,180	—	4,180	—	4,180
その他	—	—	—	434	434	—	434
顧客との契約から 生じる収益	226,673	4,180	230,854	434	231,288	—	231,288
外部顧客への売上高	226,673	4,180	230,854	434	231,288	—	231,288
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	583	583	△583	—
計	226,673	4,180	230,854	1,017	231,871	△583	231,288
セグメント利益 又は損失(△)	7,339	△122	7,216	65	7,282	△40	7,242

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、製造事業を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失の調整額△40百万円は、セグメント間取引消去になります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(重要な後発事象)

(重要な設備投資)

当社は、2023年12月6日開催の取締役会において、新設物流センターへの設備投資を決議いたしました。

1. 設備投資の目的

今後の成長戦略実現のために物流センターを新設し、同時に関東圏の物流拠点を再編することで、構造的にローコストな物流プラットフォームの構築を進めるものです。

2. 設備投資の内容

- | | |
|-----------|--|
| (1) 所在地 | 埼玉県上尾市 |
| (2) 用途 | 物流センター |
| (3) 投資予定額 | 18,000百万円
(内訳：マテハン 15,000百万円、建築 2,000百万円、システム 1,000百万円) |

3. 設備の導入時期

- | | |
|------------|----------|
| (1) 着工予定 | 2023年12月 |
| (2) 稼働開始予定 | 2025年6月 |

4. 当該設備が営業・生産活動等に及ぼす重要な影響

2024年5月期の連結業績に与える影響は軽微であります。

3. その他

販売費及び一般管理費の明細（連結）

科目	前第2四半期 連結累計期間 (自 2022年8月21日 至 2022年11月20日)		当第2四半期 連結累計期間 (自 2023年8月21日 至 2023年11月20日)			(参考) 前期 2023年5月期 (自 2022年5月21日 至 2023年5月20日)	
	金額 (百万円)	売上比 (%)	金額 (百万円)	売上比 (%)	前年同期比 (%)	金額 (百万円)	売上比 (%)
人件費 ※1	11,145	5.1	12,879	5.6	115.6	22,712	5.1
配送運賃	12,047	5.5	11,214	4.8	93.1	21,843	4.9
業務外注費	2,313	1.1	2,450	1.1	105.9	4,748	1.1
業務委託費	6,132	2.8	5,670	2.5	92.5	11,696	2.6
地代家賃	5,473	2.5	5,551	2.4	101.4	10,835	2.4
貸倒引当金繰入額	16	0.0	29	0.0	177.0	16	0.0
減価償却費 ※2	1,545	0.7	1,908	0.8	123.5	3,451	0.8
ソフトウェア償却費 ※3	1,374	0.6	2,322	1.0	168.9	2,739	0.6
その他諸経費 ※4	6,777	3.0	8,362	3.6	123.4	14,375	3.2
合計	46,827	21.3	50,388	21.8	107.6	92,420	20.7

※1 前年同期と比較して、当第2四半期連結累計期間の人件費が増加しておりますが、主な要因は、人員増および株式会社AP67他4社の連結による影響であります。

2 前年同期と比較して、当第2四半期連結累計期間の減価償却費が増加しておりますが、主な要因は、2022年11月の「ASKUL東京DC」の稼働による影響であります。

3 前年同期と比較して、当第2四半期連結累計期間のソフトウェア償却費が増加しておりますが、主な要因は、2023年7月のBtoB事業における新アスクルWEBサイトの本格稼働による影響であります。

4 前年同期と比較して、当第2四半期連結累計期間のその他諸経費が増加しておりますが、主な要因は、BtoB事業におけるテレビCMの放映およびインターネット広告の強化による影響であります。